

第 1 回 議員協議会

令和 6 年 1 月 29 日 (月) 5 階 第 1 委員会室	開 会 1 0 時 5 6 分 閉 会 1 2 時 2 1 分
-------------------------------------	------------------------------------

午前10時56分 開会

○議長（加藤輔之君）

皆さん、こんにちは。ご苦勞様です。

お疲れのところ、今ひと踏ん張り、よろしく願います。

今回は招集の文書にも書いておきましたけれども、これで今年の方はおおむね委員会活動等終了に近づいているわけですが、この中でしっかりと一年間、それぞれの委員会の反省をして、次年度に、次期の役員に受け継いでいくということが、次のスタートの時点でスムーズに事が運ぶということになるわけでありませう。

そういう点で、今日はそれぞれ委員長から、一年間の反省も踏まえて、いろんな課題を各自、引継ぎ事項をまとめてもらい、その後、委員会とその他の委員からの意見があればそれを伺って進めたいというふうに思いますので、よろしく願います。

委員長が5分程度で話をまとめていただきたいと思ひます。

それでは、よろしく願ひます。

○議長（加藤輔之君）

それでは、最初に、議会運営委員会の榛葉委員長からよろしく願ひます。

議会運営委員長 榛葉利広君。

○議会運営委員長（榛葉利広君）

今年の議会運営委員会の取りまとめというか、反省というか、ということですが、議長から今年、諮問をいただいたのが、議会のオンライン、委員会のオンライン。本会議に関しては、まだ、法令上なかなか難しいことがあります、委員会についてのオンラインの可能性もというようなことで、視察もさせていただきまして、一時はこの iPad がなくなるかもしれんという危惧もありましたけれども、何とか皆さんにご協力いただきまして、更新をするということにもなりましたので、次の議会運営委員会でぜひ実現に向けての取りまとめといひますか、そういうことを進めていただきたいなというふうに思ひます。

実際の実務はなかなか専門性も高いので、そういうことに関しては、引き続きというか、私が ICT のリーダーというような形で引き続きやらせていただこうかなと思ひてます。そういう前提で議会運営委員会として、そこら辺を決定していただけるといいのかなというふうには思ひます。

あと、そのほか、個人的なことにもなりますし、議会改革との兼ね合いもありますので、ちょっとそこら辺が、実際に議会運営委員会が担当するのかどうかというのとは分かりませんが、今回、

1月1日に地震も起きました。いろんな報道を見ると、向こうの議員さんも大変な状況だということもお聞きします。

実際、地震もありますし、いろんな災害があります。また、パンデミックということもありますので、コロナは最近は落ちついてきてますけども、そういう状況になったときに、オンラインも関係してますけど、それ以外のことで、危機管理とかそういうことが非常に重要だと思いますので、議会の機能をどう維持していくのかということが課題にはなると思います。

ということ、また、議会運営委員会の課題としてもいいのかなということは、特に今年の1月1日の災害を見て思いましたので、検討いただければなというふうに思います。

以上です。

○議長（加藤輔之君）

それでは、議会運営委員会の委員の中からはどうですか。ご意見はありますか。

○14番（熊谷隆男君）

長くなるので、各委員長に話してもらいましょう。

○議長（加藤輔之君）

それでは、総務民生文教委員長 三輪田幸泰君。

○総務民生文教委員長（三輪田幸泰君）

総務民生文教委員会は2月に委員長にさせてもらいまして、運営させてもらっておったんですが、そのときに、やっぱり年間行事云々っていうのは委員長の委任をいただきまして、やらせてもらって、ちょっと私も不慣れなところがありましたので、副委員長と一緒にアドバイスをいただきながら立案させてもらったんですけど、一応、視察と、あと、病院の勉強会を兼ねてやらせてもらったというのが実績というぐらいいいかうたうことができません。

いろいろ管内視察を考えておったんですけど、いろんなことでなかなか後回しになると時間がなくなってしまったという、ちょっと情けないことになりました。そこら辺については、やはり申し訳なかったと思っております。

あと、一応、視察についてはちょっとスタートがまズかったというのもありましたので、そこら辺、早くやるようにっていうふうには事務局さんからいただいておったんですけど、向こうさんの都合やなんやかんやというのもちょっとありまして、11月になってしまって、そこら辺に戻されたっていうのが結果であります。

あと、視察については、子育てについてと、丹波竜ですね。瑞浪の化石に含めたものと、複数学年・複数担任制について勉強させてもらって、これは今後について、先回、皆さんにも共有させてもらったんですけど、瑞浪に戻ってきて、瑞浪にどのようにアプローチができるかっていうことでやらせてもらっておりますので、そんなところでやっています。

あとは引継ぎについては、やはり令和5年度中でうち、私が委員長をさせてもらって、令和4年の委員長さんからも一応、令和4年のいろんな質疑事項をいただいたんですが、そこら辺を見ながらやったつもりでおったんですけど、なかなかそこら辺のバトンの受け渡しっていうのが、密じゃ

なかったっていったらちょっと失礼な言い方になっちゃうか分かりますけど、そこら辺をやはり密にやっていたら、継続性が取れて、うちの瑞浪の議会としてもいい方向に行くんじゃないかと思っております。

以上です。

○議長（加藤輔之君）

引継ぎはあったのか。

○総務民生文教委員長（三輪田幸泰君）

引継ぎは委員長さんから。そんなに言って失礼ですけど、2時間ぐらいのレクチャーをいただいて、はい。書面っていうか、口頭のところもありましたけれど、流れとしていただいたと思います。

○議長（加藤輔之君）

経済建設委員長 辻 正之君。

○経済建設委員長（辻 正之君）

経済建設委員会からお話しさせていただきたいと思います。

まだ事務組合の事業が残っておりますけれども、今の段階で内容をもう少し説明させて、取り組んだことについてお話しさせていただきたいと思います。

まず最初に引継ぎを受けまして、閉会中の継続審査というものがありましたので、これを議長に出しまして、継続審査に取り組むということで引継ぎを受けております。

そして、また、4月28日にはPPP・PFIの手法についての勉強会を行いました。

それから、4月17日に瑞浪市観光大使の委嘱式というのに参加をさせていただきまして、当日、神谷そらさんですね。それから、木股さんというバサラ瑞浪の振興協会の方の委嘱式が行われたので、これに参加をさせていただいております。

それから、5月29日にバーベキュー広場の現地の勉強会を行いまして、皆さんに多数参加していただきまして、ありがとうございます。

また、6月は議会、それから、8月5日は瑞浪美濃源氏七夕まつり安全祈願祭がありましたので、そちらに出席させていただいております。

8月22日、23日、これは会派視察ということで、山口県防府市と山口市へ委員会視察、経済建設委員会視察を行わせていただきました。

こういった事業がたくさん入っております、経済建設委員会も順調にそうしたものに取り組んでいくということがありますけれども、一応、特に気になったところと言いますと、経済建設委員会の視察ですね。この視察については、やはり委員長に一任していただければいいかなというふうには思っております。

それはなぜかと言いますと、視察先を選定するにあたって、非常に大変苦勞いたしましたので、いろんな要望があると思いますけれども、やはり事務局を通して視察先、受け入れ先へアポを取って日程調整をするというところで、これが一番、ちょっと大変な苦勞をいたしまして、できるだけ

前半で決めたいなというふうに思っておりましたので。

○14番（熊谷隆男君）

それはやっとなや、今まで。

○経済建設委員長（辻 正之君）

そうですね。そういうふうでありましたので、皆さんやってみえると思いますが、そういうのがありましたので、活動の中では一番それが苦勞したということになります。

あと、そのほかは順調に皆さんのご協力をいただいて進めることができましたので、ありがとうございます。

以上で、大体、主な内容になります。

○議長（加藤輔之君）

特に課題はないですか。

○経済建設委員長（辻 正之君）

課題は、まだ実質的には土岐橋とか、それから、勉強会などもですね。そういったものをいろいろ継続でやっておるところがありますので、そういったものに対しては、今後また勉強会を開いていただけるといいかなというふうに思います。

○議長（加藤輔之君）

予算決算委員長 奥村一仁君。大変やと思うけど。

○予算決算委員長（奥村一仁君）

予算決算委員会としては、主に事業評価についての課題を少し上げていきたいとします。

まず、事業評価ですが、やっぱり事業を正確に評価するためには、まずは事業を正確に理解する必要があるんですけど、現状では、全議員ができていないという課題があります。また、事業評価は今年、10個と再評価2個に制定したんですけど、今回は経費という、ちょっと設定をしまして、非常に事業評価しづらいということがありました。

事業評価をしてから数年が経過しておりまして、過去、なるべく事業評価してないものということで選んできましたけども、そもそも、先ほど申したように、経費という名のつく事業とか、事業を評価しづらい事業しか残っていないので、そのあたりを改善していくとか、選定のときに改善していく必要があると思いました。

一番大きな問題は、事業を評価するのみにとどまっていて、新年度予算の内容とか、事業の改善には実質はつながっていないという大きな課題があります。

それらの課題に対する引継ぎ事項として、まずは、これは個人的な考えを含みますけども、評価する事業を半分程度にして、例えば、議員間討議等をまず行って、事業を正確に理解することと、どこに着目して事業を評価することというのを議員間でしっかり議論して、その後、担当課のヒアリングを受けて事業評価をするというような手順を踏んではどうかというふうなことを検討してはどうかということを考えています。

もう一つ、ここ数年は市が目にする事業というものも毎年あるんですけど、そこから選定してき

て、評価する事業を選定してきてるんですが、先ほども申したとおり、選定する事業が減ってきていますので、もう一度リセットというか、全事業を対象にして、ここ何年程度、個人的には5年ぐらいかなと思ってますけど、5年程度経過した事業はどんどんまた評価してもいいんじゃないかと思ってます。そのあたり、検討してはどうかと思ってます。

あとは、事業評価のスケジュールですけど、現状では決算時期に議会として評価を、事業評価を提出してるんですけど、やっぱりそれでは新年度予算の編成には間に合いませんので、もう少し早めに事業評価をして、予算編成前に事業評価の取りまとめを提出することによって、新年度事業に提言内容を反映させるような機会をまずは作り出したらどうかということを考えています。

もう一つは、今は予算に基づいて事業評価してるんですけど、やっぱりどうしても評価しづらいというのがあります。皆さんの出してきたものを見ても、提案も含んだ評価になってるものも幾つかありますので、例えば、もう提案も含めた評価をすることを許可というか、提案も含めた事業の評価をすることを検討してはどうかとか、あとは事業を評価するだけじゃなくて、施策全体を評価するとか、政策全体を評価するとか、そういった評価方法を考えるのも一つかと思っておりますので、そのあたり、次年度に引き継ぎたいと考えております。

以上です。

○議長（加藤輔之君）

リニア・瑞浪恵那道路・新丸山ダム特別委員長 樋田翔太君。

○リニア・瑞浪恵那道路・新丸山ダム特別委員長（樋田翔太君）

一年間、ありがとうございました。

引継ぎ事項としましては、瑞浪恵那道路の関係で、恵那との交流会は行ってるんですけども、今度、ダムが完成したときに、まちづくりを含めて恵那市との交流もちょっと活性化していかないといけないかなと思いましたが、向こうの議員さんとの交流がもし何かあってもいいのかなというふうに感じました。

引継ぎとしてはそれぐらいですね。

以上です。

○議長（加藤輔之君）

議会改革特別委員長 渡邊康弘君。どうぞ。

○議会改革特別委員長（渡邊康弘君）

議会改革特別委員会としましては、特別委員会での視察というのが、今回、いろいろ皆さんご意見いただいたおかげで実行できました。

視察後に議論を行うということも新たな取り組みとして行いまして、こういった感じで今後、議会改革だけでなく、必要に応じて実施していただければと考えております。

議会改革特別委員会自体がですね、議長からの諮問を提供される部分が多いですが、今のタブレットの活用であったりとか、議会の委員会とかの開催時間の検討も行いました。

実際、いろいろな課題もこの間、検討会でも出ましたが、本当に議会とか議員の資質向上に向け

て必要があれば、議会改革の取り組みが一番重要となってまいりますので、今年度、視察を行った岩倉市とか戸田市、取手市とか非常に参考になる事例もありましたので、そういった事例を基に次年度の議会改革へ取り組んでいただければと思います。

以上です。

○議長（加藤輔之君）

総合計画特別委員長 小木曾光佐子君。

○総合計画特別委員長（小木曾光佐子君）

この委員会は、もう策定ができれば終わるといふふうに、最初から2年というふうに決まってる委員会でしたので、昨年、榛葉委員長のときには、第6次総合計画のもう一回見直しとか、それに対してみんなで検討会とかをやったんですけど、今年度はもう既に構想ができ、計画ができるということでしたので、それを一生懸命皆さんと話をすることによってやってきましたので、来年度に引き継ぐことはありませんが、ただ、今回、継続審査になったという、ああいう事案というか、そういったものが、今まで議会の中でも経験したことのないことになりましたので、そういったことについてはいい勉強にもなりましたし、もっと慎重にやらなきゃいけないなということを感じました。

それだけです。以上です。

○議長（加藤輔之君）

広報広聴委員長 柴田幸一郎君。

○広報広聴委員長（柴田幸一郎君）

広報広聴委員会では、委員会で本年度の課題について協議を行いましたので、その課題4つについて報告したいと思っております。

課題の1つ目です。議会報告会の開催方法の見直しについてです。毎年、議会報告会は同じような人、同じような役職で、義務的であるから人が集まらないのではないかと。広範囲なテーマになり過ぎて、発展的な意見が得られないのではないかなどの課題がありました。

ならば、若者が集まる場所、団体などの私たちが出向く出前議会報告会を開催してはどうかという意見が出ました。

また、議会運営委員会で視察した埼玉県戸田市は、常任委員会がテーマを決定し、一年間の計画を立てて、市民に報告会を開催しています。大変有意義なものだと思っておりますし、瑞浪市も平成27年の議会報告会は、常任委員会が主体となって議会報告会を開催しているらしいです。

課題の2つ目は、教育現場での報告会についてです。全国的に若者は政治に興味がないと言われております。令和3年の高校生アンケートからも議会に関心がないことが浮き彫りになりました。関心がない理由の第1位は内容が分からないから、第2位は身近に感じたことがないからとなっております。

この結果は、高校生だけではない。本年度、30代から40代の子育て世代の議会公聴会でも同様な結果を得た。市議会は、市民の生活に未来の瑞浪市に直結していることが分かっていないのではな

いだろうか。市議会議員は市民の代表とは考えていないんじゃないだろうか。

だから、小中高校を対象とした議会報告会を開催することで、子どもの頃から、1つ目、瑞浪市の将来を考えるきっかけを作ることができるんじゃないだろうか。2つ目、議員活動を知ること、身近に感じていただくことができるんじゃないだろうか。3つ目、意見交換することで、私たちが新たな発見ができるのではないだろうかと考えています。

1月23日の議員定数検討会の総会で、教育現場での広報広聴や議会報告会や意見交換会に多くの意見があった。必要性が高いと私は感じています。

課題の3つ目です。若者が利用しやすい情報発信、若者に議会に興味を持ってもらうためには、若者に身近な情報発信が必要であると考えています。令和4年からSNSによる情報発信を検討していますが、しかし、令和5年度は進んでいません。令和6年度は理解力のある方が積極的に進めることを期待します。

しかし、メリットだけではない。SNSを中止した市議会があると聞きます。どのようなデメリットがあるのか、慎重に進めるのも必要であると考えています。

課題の4つ目です。議会ちゃんねるの再検討です。市民に読んでいただく、目にとまる広報誌はどうしたらよいのだろうか。議会広報誌は読む時代から見る時代になったと言われています。読みやすくなるデザインや構成などを検討する、または、号外などの発行回数を検討するがあります。

しかし、私たちのような素人が行っている議会広報誌のデザイン、構成、アイデアには限界がある。専門家の講義を受けて、より良い議会広報誌を勉強するべきだと思っています。

早稲田大学研究所の議会改革ランキングで上位を取る取手市の議会広報誌は、A4サイズ1枚です。読むより見るという形です。詳細はYouTubeでご覧くださいとなっています。1時間半もかかる委員会の動画を見るような市民はいるのだろうか。

NHKで予算決算委員会などの国会中継を6時間放送しているが、その国会中継を最初から最後まで見る人なんかいるのだろうか。そんな人は変人かマニアックか評論家だ。多くの人が7時のニュース、15分でまとめられた記事を確認する程度です。

議会ちゃんねるを動画版にすることは本当にいいのかまだ分からない。

以上、4つです。

○議長（加藤輔之君）

まあ、一応、全部今、意見を出してもらったんですけども、共通して、各委員会で議長の立場から見ると、発言、資質向上に向けて一人一人がどのように取り組んでいるかということを見るならば、それぞれの委員会における発言回数っていうのが非常に気になるわけでありまして。

そういう点で、今、見ておると、非常に質問をよくしてくれる議員が5、6人いるということで、発表しておるわけですけども、そういう質問をする人間が監査委員とか副議長になっちゃうと、しゃべらへん。そういう点で、なかなか質問の回数が減ってくるっていうのが非常に見ておって気になったところであります。

また、監査委員であろうと、数字に関わる以外のことであるならば、一般質問もやってもいいし、

委員会での質問をしっかりとやるべきやというふうに思っておりますので、次の監査委員、それから、副議長になっても、その辺は取り組んでもらえんかなっていうことを思っております。

それから、委員会のテーマを当初きちっと決めて、一年間を通してそれを追及してほしいということは、一部には出ておりましたけれども、そういう点で、委員会のテーマ、チームを決めて、議長諮問のみならず、一年間終わって、いろいろやっていくということも大事であるというふうに思っております。

議長として、そのようなことも思っておりますし、あと、議会運営委員会については、以前は議会運営委員会以外に会派代表者会議というやつを結構、頻繁にやっておったんですけども、今回はそんなの一回もやらないと、ということをしたわけですけども、その辺についてもご意見があったら伺いたいという、議会運営委員会ではそんなことを思ったわけでありませう。

あと、全体について、皆さん方から、これについてはこうやったよというようなご意見があれば伺いたいと思います。

熊谷議員、どうですか。

○14番（熊谷隆男君）

たくさんあるというよりも、まず、引継ぎということが出てきて、引継ぎということになると、ずっと同じことを継続して、前年踏襲で同じことをやればいいと。常任委員会ではもう視察先でみんなに勉強してもらえばいいと。

ところが、今、審議するべきことが、さっき副議長が言ったみたいに、委員会の活用というのが、予算決算委員会でも多く扱うようになってからは活動というものが非常に鈍くなってるっていう。継続中の審査というのを取り違えをしないとと思う。

いろんなことをやれるわけやから、審査をすることができるということで、もうちょっと委員会を活用したほうがいいんじゃないかなということを感じる。

もう一つ、議会運営委員会も何もかも含めて、議長の言われたことと言うけども、単年ごとの委員会、それから、活動、議員の役割によるもので、やっぱり委員長になるものは、もうその時点で自分がこの一年何をやるかということを実際に考えないかん。その参考にするのが引継ぎの意見であって、自分がこの一年をどうやって皆さんに勉強してもらおう、資質向上に努めてもらうというようなことであつたりとか、調査・研究をするかということをするのを、やっぱり当初に持ってってもらわないとなかなか進まんじゃないかなということ。

それから、あり方を変えようとするのに、皆さんどうしたらいいかというのと、かつては、流れから言えば、会派があつて、会派から議会運営委員会に上がって、こういうふうにしたらどうかと。

もしくは、個人の意見で、議会運営委員会に上げてほしいということで調査・研究すると。これを議長に対してどうですかというようなことで、議長がこれについて、それじゃあ、チームを作って検討してもらおうかということになるのか、みんなで協議会で考えようかというふうになるかもしれませんが、どこかで定義をしなきゃいけないということになってくるわけです。いずれにしても皆さんが承知せないかん、納得ということで、やっぱり議員間討議は進めてもらわないかんかと

いうことを思います。

引継ぎされるということで、なかなか今の話で、今言ったようなことを引き継ぎで委員長同士でされても、そうためにならないような話ではなかったか。まあ、副議長は真剣に一生懸命であるところはあっても、やっぱり抱えるものが毎回変わる。

議員も毎回変わるので、あれやけども、それでも常任委員会と同じことをやっていけばということで、これ僕の提案でもありますけども、これは来年度に向けてどうなるか分からんので、来年の議長さん、副議長さんが進めることで考えてほしいのは、常任委員会で副議長の意見も、あるいは、広報広聴委員会の意見とは別のような話になりますけども、この間ちょっと言いましたけども、常任委員会で、子どもは総務民生文教委員会で出前で、これは意見を聴取するのか、議会を知ってもらうのかということを明確にして企画をすると。もうそれは教育に関わらず、今度は福祉のほうで、これはそのときの委員長さんが、今年は福祉についてやりますよと。これを調査・研究で、出前で出かけて行って、直接お聞きしますよと。

経済建設委員会であつたら、この間、樋田議員とちょっと話したんですけども、土木要望がいっぱい地域から出ておって、もうそれは別個でお任せしとるけども、議会が携わっておらんけども、せめて地区のこれだけはやってほしいとか、そういうのは議会に聴取して、経済建設委員会で、やっぱりそれ、出向いて、その場所を見るなり何なりとかね、要は議員定数検討会でいったように、なかなか市民の皆さんと関わるのがなくて、どうしても誤解の中で議論しとっては、やっとなんかことが伝わらんとするね。

また、ほかを知ることもできるので、それで、そういうことを経済建設委員会では、例えば、経済でもいいわけですよ。直に当たって、商店街の人との懇親を聞くとか、業界の組合のところでも聞くとかというようなことも、これも出前の一環でやると。来てもらっても結構やけども、常任委員会の活用というのが大事ではないかなと。

これを、そのことも広報広聴委員会は市民の皆さんに知らしめるということ、ここは連携してもらっていいんです。

議会報告会に関しては、これまでどおり副議長が兼ねるわけやけども、今まで同じようなことをやってきたかっていうと、そうでもなくて、子育て層の親のことをやったこともあるし、PTAのことで特化してやったこともあったし、各地域の普通の細かい単位のところでもやったというのも、これまあ、副議長の仕事の一つであるので、なられるときにはやっぱりそれを、自分はこういうことに関心があるということで色を出してもらってもいいのではないかなと。

それでこれを委員会、委員、広報広聴委員会で処理をしていく。これを毎年やってもらったら、違った角度からいろんな視点が出てきていいのではないかな。逆に常任委員会は、ある程度、その範疇の中で市民の皆さんと触れ合う機会を、意見を聞く、聴取するところは広報広聴委員会という仕事ではなくて、委員会の役目でもあるので、やっぱりそこらには一生懸命取り組んでもらうことを考えてもらいたいと。

そのことをテーマに議論をすると。議員も考えるということが、定数の検討で行くと、市民の皆

さんには見える化につながるんじゃないかと、議員の活動が。そういうことも含めて、そういうことを増やしていただきたいと。次期のときにはどういうふうな体制になるか分かりませんが、提案としてそういうことを進めていただきたいと。

これ、形で、規則でこうせないかんっていうと、なかなかこれ堅苦しくて、責務を負った人が、委員長になった人は大変かなというようなことも思うので、来年の方が、その時点で、今から考えていただいて、役が決まったときにはある程度、自分がやるべき役のところのリーダーシップを取るということで。

これはまあ、みんなの意見を聞いて方向性を決めるっていうのはなかなか決まらない話で、あれなので、やむを得ないかなと思うので、今後、ある程度、形を変えてというか、内容を変えてそういうことを、この一年間進めてもらおうとありがたいなということを思います。

それから、予算決算委員会に関しては、奥村委員長が言うように、一番の課題は事業評価が、予算へのアプローチを含むのかどうか。当初作ったときは、今の形は決算認定の中の事業評価と。これは何を意味するかというと、決算認定でしたものを予算にしようと思うと、もう継続する事業しか余計狭まるということ。

それから、一年を開くということやね。事業評価をして評価をしたときには、もう10月から積算をして、9月から積算をしとる予算についてのアプローチとしては遅いと。ということはどういうことかということ、次に出て、年明けに仮にその答えを出して要望したとすると、反映されるのは、その翌年の一年間の空白が生まれるという、現実的に起こりやすいということ。

事業評価をするスケジュールをも考えれば、アプローチも厳しい。それと、そういうことは関係なしに、予算にアプローチしたいと。ものを言いたいということであれば、継続すべきもの。2年、3年ずっと続くものについてを主眼にやると、選定すべき事業はますます減ってくるだろうと。

それも県の予算であったとか、国のあれというのが入ると、余計に評価するところが難しくなるということもあるので、当初、決算認定ではなく、事業評価をしようということにすれば、別に9月議会でなくてもいいのか。6月議会で事業評価をやって、それで、10月の策定、積算をする、執行部が幾ら予算を決めるといふときにするということもありかなと。

ただ、それが反映されるかどうかは分からんけどね。ものが言えると。予算に対してのアプローチも含む事業評価ということにするということも意味があるかなと。これは本当に皆さんのご意見を議論するところですけども。

今聞いた中では、おおむねそんなようなことを思いました。

○議長（加藤輔之君）

11番 小木曾光佐子君。

○11番（小木曾光佐子君）

先ほど、視察でちょっとスタートがまずかったというようなお話もありましたけど、今回、今年は5月までコロナのことがあったりして、なかなか今年の委員長さんは大変だったんじゃないかなと思いますので、今回は初めからスタートダッシュが切れるので、早くやりたいなというのと。

それで今、熊谷委員もおっしゃったんですけど、視察先とか内容については、委員長がやらないと難しいよということがありますが、ただ、委員長任せにするのではなくて、やっぱり委員の皆さんがご意見を出し合うということはずごく大事だと思うんです。その中で、先ほども辻議員が言われましたけど、大変って言われるけど、今までの委員長さんはその大変は全部やってきていますので、当たり前それが仕事なので、そのために手当も余分についてるわけですので、やるべきだと。それはしっかりやったほうがいいということ。

それから、先ほど、予算決算委員会についても、事業について議員が理解していないっていうふうに委員長さんは言われましたが、その勉強会をやるっていうことはもう、特に新人の場合には、5年間の大きな資料をもらっても何だかよく分からないというところがあるので、やっぱり勉強会はすべきだろうというのと、対外的に見ると、予算をつけるときにもっと議会がきちんとものを言えるようにしなきゃいかんということと言われるんですけど、向こうがつけてきたものを、つけるまでの間の経過を見ていないので、なかなか予算要求は難しいかなとは思いました。

○議長（加藤輔之君）

はい、ほかに。

8番 樋田翔太君。

○8番（樋田翔太君）

今まで議論がありましたように、常任委員長の動きをもう少し活性化しなきゃいけないと思っております。前は報告会のテーマも常任委員長が決定して、それでこういう世代に集まってほしいというところもありましたし、継続審議のやつもありましたし、視察先の選定もあるんですけども、委員会をまず開かないことには、その中で今年はこれをやらなきゃいけないというような議論が深まらないので、まず委員会を開催して、各委員からの意見を聞く。今、自分の思ってる思いも言う。その中で、委員会の今年のテーマを決めて動いていかないと、一年が本当に、委員会を開くだけになっちゃったらいけないと思います。

あと、副議長からありましたように、小中高生への議会報告というのは非常にいいかなと思うんですけども、小学生だとまだちょっと理解が及ばないかなというふうに思いました。中学生は公民の授業で取り扱うのでちょうどいいかなと思っておることと、高校生だと市内にはいるけども、市外から通ってる人も結構いますので、その辺のバランスをどうとるか。それこそ中学生だったら、市が予算をいろいろ決めて動けるところなんですけど、高校に対しては余りそういうところがアプローチをかけれないところがあるので、そこをテーマも考えながら、そういったところもやっていく必要があるというところ。

もう一点、議会報告会というネーミングですよ。やっぱり堅いかなというふうに思っていて、公聴会とかいろいろ変えてもらったんですけど、そもそもは議会の基本条例で報告会って書いてあったので、それをもう少し砕けた名前にしてもいいような書きぶりにそちらをいじる必要があるかなというふうに思いました。

以上です。

○議長（加藤輔之君）

はい、ほかに。

16番 柴田増三君。

○16番（柴田増三君）

僕は、予算決算委員会の副委員長という立場の中で、例えば、ここらもまとめて報告したのかなと思ってますけれども、熊谷議員も言ったように、先ほど、もともこの予算決算委員会の中で、次に予算に反映できるような形できて、順番と先へ入ってきた経緯もあります。

ただ、それだけじゃなくて、今年は委員長の発案のこともありましたけど、事業評価をした中で、新たにまた改正していくっていうか、評価した中でまたこういった課題をどう解決してきたのかという形の中で、2つほど既にやった中で、改めてまたやったわけですがけれども、ああいった部分っていうのは、事業をまた皆さんが評価して、議会を評価して、どう改善されてきたかという部分において、もっと評価的にもっとしっかりするべきなところがあれば、改めてそこも一緒に事業評価していく対象に入れる分にはやぶさかではないのかなと改めて思っております。

確かに、長年ずっとやってくると、平成23年ぐらいから始めたかな。やってくると、事業ってもうなかなか同じものばかりしか出てこないし、ただし同じものっていうのは長年ずっと同じような事業っていうのは、600個、800個ある事業なんて同じものは幾らでもあるわけですよ。

その中でやっぱり、ずっとやってこられても、その中にやっぱり評価した中も含めて、ここにまだ課題があるんじゃないかなという部分について、改善する部分、あるいは、どう改善されたのかっていう評価の仕方っていうのはまだあると思いますので、お金の問題だけではなくて、全ての問題についてそういうことも必要かなということ。

それから、予算決算委員会って、もう今、みんなが一つになってるもので、全てが、総務民生文教委員会も経済建設委員会も含めて全てあるわけやね。そういった中で、勉強するっていう機会っていうか、一番大きい部分があるわけで、常任委員会とは別の常任委員会として。

なので、あらゆる部分で皆さんからいろんな、委員長から先ほど、昔は委員会別に委員会から提案された部分で一応、議会報告もやってきたわけやけども、そういった部分では、やっぱり委員長とそれぞれの課題も含めた中で、密にしていく中で、予算決算委員会をもっと発展っていうか、突っ込んでものはやっていける部分かなと、そう思ってますので、その辺だけお願いいたします。

○議長（加藤輔之君）

はい、ほかに。

12番 成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

皆さん、いろいろ意見もあると思いますけども、まず役職者、役職になる方々は、これは名誉職じゃないんですよ。忙しいのは当たり前なんですよ。役職を、役を持ったらやっぱり名誉職じゃなくて、仕事はいっぱいあるんだから、その仕事をこなしていくっていうのが役職者の仕事として思っております。

それであると、委員長なんかは、委員の意見を聞かぬあかん。聞いてうわの空では全然駄目だ、やっぱり。そういうことも必要なと私自身は思っております。

あと一つ、去年、おととしまでやってまいりました、それこそ議会基本条例の10条にある議員間討議、自由討議っていうことなんですけど、これが今年一年間やれなかった。やらなかった、早く言うと。やらなかったんですよ。前は委員会の後に自由討議をやりませんかって言ったのに、それも誰も出なかった。

そういうことを私はつくづく感じたんだけど、なぜあのときにスタートして今回やめちゃったのかなということも一つ、私はあります。やっぱり議会基本条例にうたってることは、それを守っていかないかん。やらなければもう議会基本条例をやめっちゃって、自由討議を取ってしまうとかね。そこまで意見を出してもらわないと、やはり飾りの議会基本条例では駄目だと私自身は思いますので、その時分をわきまえて、次期、頑張ってもらいたいと思います。

余り言うとなんか嫌らしいんで。

○議長（加藤輔之君）

三輪田議員、議員間討議をやろうという企てはあったやら。

○6番（三輪田幸泰君）

議員間討議ですか。

総務民生文教委員会では、前の委員会です。

○議長（加藤輔之君）

10番 大久保京子君。

○10番（大久保京子君）

今、成瀬議員がおっしゃったように、ちょうど私が総務民生文教委員会の委員長をさせていただいたときに、議員間討議、自由討議をしっかりとやっていこうじゃないかということで、私もかなり勉強させていただいて、自分なりに努力して、委員長の考えも当然だけれども、その委員の方々のご意見をしっかりと聞いた上で、こういうことを一年間やっていきたいんですっていう形から委員会が始まっていったつもりなんです。

なので、やっぱりそこをもう一回、ちょっと考え直して、しっかりとその辺を踏まえて、次年度もやっていただけたらありがたいなと。そしたら、もう議員みんなの意見がしっかりと反映されていくんじゃないかなと思います。

○議長（加藤輔之君）

今年は請願がなかったものの。請願があると。

○10番（大久保京子君）

まあ、請願もそうですけど。それはそれで、委員会として。

○議長（加藤輔之君）

9番 渡邊康弘君。

○9番（渡邊康弘君）

現状、予算決算委員会にウエイトがあって、経済建設委員会とか総務民生文教委員会は本当に落ちてきた条例をやってくるっていうのが多い状態になってるんですけど、もともと常任委員会は専門部会ですので、予算決算委員会と連携しながら、さっきの勉強の話とかもそうなんですけど、常任委員会、経済建設委員会、予算決算委員会でしっかりと勉強する機会を今後やっていただきたいなど。

そうすると、当初の予算審議のときにもしっかりと意見が出てくると思いますし、その後の各委員会でも意見が活発に、しっかりと当初でちゃんとその部会の人たちが、経済建設委員会、総務民生文教委員会の各委員のメンバーがしっかりと事業を理解した上で話を進めていけるとと思いますし、活発な意見が出る状況になってくると思いますので、そういった意識を持って、勉強会の場であったりとか、自分の理解であったりとかはできるような環境を努めていきたいし、やっていただきたいと思います。

○議長（加藤輔之君）

14番 熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

反省というか、思ったので、ちょっと事務局に頼り過ぎ。もう俺に言わせると。何でもこれ、「どうやったらいいですか」、「これどうですか」という聞き方で、「私はこれがやりたいけど、どうやったらやれるでしょうね」なら分かるけども、今日の委員長報告でも、作るときに本当に委員長が自分の言葉でしゃべるのに、事務局と相談して作っとるかっていう話。

事務局が作ったやつをただ読んどるだけやないのっていうこと。もう文章、何にもチェックもせず、話してただけやないのかということが出てくるわけ。自分の名前を出すんやから、やはり責任を持つと思ったら、事務局に余り頼らない。有能な事務局ではあるけども。事務局が悪いって言っとるわけやなくて、手を貸し過ぎなんや。過保護。

だから、もうちょっと突き放して、もうちょっと自分で考えて作ってくださいと事務局が言ったらいいと俺は思う。本当のことは。余りにも言われたことをやれば達成感があるようなものの言い方をするけども、それ自体、最初の発想自体、俺、間違っとるんやないかなと内心。

偉そうに言えんけど。自分も頼るので、あれやけども、やっぱりどう進めるか、どうやるか、何をやるのか、何をしゃべるのかっていうのは、やっぱり自分の言葉で、自分で責任を持ってやろうということが大事なような気がするのです。

○11番（小木曾光佐子君）

ちょっといいですか。

○議長（加藤輔之君）

11番 小木曾光佐子君。

○11番（小木曾光佐子君）

さっき榛葉議員が、iPadの話をされましたが、実は成瀬議員も私もストレージがいっぱいですってもう出るんですよ。それをどうするかっていうので、それこそ今のIT推進のほうで、消す

ものは消すとか、そういう活動も既に始めていただきたいなって思ってます。

○13番（榛葉利広君）

結構前、隅田君がおるときにやって。消してもいいってということにはなっとる。

勝手には削除できんと思うので、削除するなら、年限切ってやるか、どの程度残すのかっていうのは、一応そういう取り決めはしたかと思えますけど。

○議会事務局総務課長（加藤真由子君）

この間、取り決めしましたよね。

○8番（樋田翔太君）

やりましたね。

○議会事務局総務課長（加藤真由子君）

はい。

○11番（小木曾光佐子君）

それに沿って。

○8番（樋田翔太君）

過去何年間分とか、市の計画みたいなやつ。ホームページから自分で取ってこれない。Dropbox上に残したやつは最小限で。

○13番（榛葉利広君）

何年以降のやつは削除することもあるっていうことが確か消せるんですけど、まあ、慎重になるでしょうね。

○議会事務局総務課長（加藤真由子君）

慎重になってます。消してしまうと、皆さん見れなくなってしまうので、落としていただければいいんですけど、そのあたりをちゃんと周知してからじゃないと消せないかなと。

○13番（榛葉利広君）

消すことになったときに、できるんやけど、一度消しちゃうと、なかなか戻すのが大変なんで。

○議長（加藤輔之君）

それじゃあ、まだ発言しとらん、4番 棚町 潤君。

○4番（棚町 潤君）

監査役の引継ぎがあると思ってたんですけど、お鉢が回ってこなかったの、ないのかなと思っちゃったんですけど。

監査役としては、やっぱり守秘義務がありますので、なかなか引き継げる部分っていうのはないのかなと思ってます。なので、個別に次に監査役になられた方に引継ぎをさせてもらおうかなとは思っておりますが、いろんところで話が出るのは、監査役が、例えば、議員がならなくていいんじゃないかっていうお話があったり、例えば、予算決算委員会に参加しないほうがいいんじゃないかっていうような意見があります。

これ僕の個人的な意見ですが、監査役を一年務めて、議員の監査役っていうのはやっぱり必要だ

なっているのを実感しました。今回、小栗さんっていう国税上がりの方と一緒にやらせてもらったんですけど、やっぱり専門職の方は数字を見ることは得意ですが、議会のことは全くご存知ないんです。

それで考えると、やっぱり僕らが議会で、例えば、補正予算の内容だったり、どういう事業をやるとかっていうのを、そちらの観点から見るとっていうことは、まさしく必要なことだなと思うので、監査役は絶対一人は議員が要るんじゃないかなというのを私は感じました。

その上で、専門性がある方、その2人体制っていうのがやっぱり望ましいのかなというふうに思っています。

予算決算に対して意見ができないっていうのは致し方ないところかなというところは思っています。決算に関しては特に言えないです。ただ、予算に関しては、最後のほうは僕も手を挙げて話してましたけど、あかんかなと思いつつも話してましたけど、やっぱり予算に関しては監査役として目にまだ触れる前の段階なので、そこに対しては意見ができるのかなというふうに思っていますので、監査役ということになると、なかなか守秘義務があつたりして難しいですけど、これをやることによって、議員の質の向上に間違いなくつながると思いますので、ぜひ、やっぱり議会から一人は絶対出したほうがいいとは思っています。

14番（熊谷隆男君）

僕、監査委員ね、最初になると、例月があつたりとか、工事のあれもあつたりとか、ほかの部署もあるんですけど、何を監査するかって、最初慣れるまで分からんわけ。例月、何言いよるんかってこうなるわけ。

それで、監査委員の引継ぎほど、やっぱりしっかりやらないかんと思う。こういうことが、去年はこういうことの課題がありましたよとか、これがあつたということは。まあ、済んだことやから言えるはずでもあるので、そういうことを引き継がんと、最初の何か月ぐらいは全くもとの、今日の弁当は何でしょうぐらいの話から監査委員にするぐらいになっちゃうと良くないので、まともにできる人間なんてそうおらなんだと思う。

やっぱり引継ぎをしっかりとせんと、議員でやることはいいけども、監査委員の引継ぎがあるんだよね。あれは、俺は本当に向こう、小栗さんはずっと監査委員で見てきた人間と、一年、4月から始まって、さあ見なさいよって言ったら、もうスタートラインが違うので、俺は引継ぎのやつは充実して監査委員をやってもらいたいなと思うね。

○議長（加藤輔之君）

はい。

○4番（棚町 潤君）

でもやっぱり個人の努力っていうのも必要で、見る気がなかったら、やっぱり見れないものなんで、当然、引継ぎはさせてもらいますし、分からないことがあれば回答させてもらうんですけど、自分でこう見る気にならないと、僕も2カ月か3カ月たたないと、まともに見れないということがあつたので、自分で見る気になるっていうのが大事ですけど、その2カ月の間に当初予算が入って

きちゃうので、ここはやっぱり一番しっかり見たいところなんですけど、そこが、何て言うか、初心者の段階で見ることになるので、そこら辺に関してはどんどん聞いてもらうっていうこと、前任の方に聞いてもらうということが大切なところかなと思います。

○14番（熊谷隆男君）

それこそ、監査委員の、僕は安田さんやったけど。

おまえ、去年もこうやったぞとか、監査するときに、昔のことか、ずっと分かってるんで、流れが分かっと思って、これ何回繰り返すんやって言われて、こちらは初めて聞く話やっていう。ああいふことってというのは、やっぱりつないで聞いとくと、本当にそういう意味での情報の引継ぎということは大変やなど。

○11番（小木曾光佐子君）

私も柵町議員の前に監査委員でしたけど、それこそ今の見方と違ってというのは、教えたりということではできると思うので、自分で前もって資料をもらうので、そのチェックをすごくするっていうのは、やっぱり努力しましたし、さっき柵町議員が言われたように、小栗さんだったのが大久保さんに途中からで、私がそれを引き継いだ形だったので、本当に議会の中が分からないんですよ、先生。

何かこれ、国から予算が下りたので何かつけたんだろねみたいな話をされるので、そこに至っては、「先生、この議会のときにこういう内容でこうでしたよ」っていうことはしっかりこちらが説明をするっていうのがあるので、それをしないと、先生も「ああ、そういうことか」ということがあるので、やっぱり議会が出ていくっていうのは必要だと思うし、それで自分も再復習ができる場所があったりして、2回それを繰り返すことになるので、すごい勉強になるので、ぜひ次にやる方も、自分の肥やしには絶対なると思います。

○議長（加藤輔之君）

それでは、1番 福永泰子君、どうぞ。

○1番（福永泰子君）

今年一年、初めての役を一回、経験させていただいて、分からないことだらけだった中で、一年終わってみて、広報広聴委員会をさせていただいて、先ほど、副議長も言われてましたけど、私たち同世代の人たちに対しては、こちらがこういうことをやるから来てねと言っても、やっぱりなかなか足が向かないということがある中で、それでもやっぱり議事をわかってもらおうと思ったら、出前講座ということとかも考えていかなきゃいけないのかなということも、私も思っております。

そういった形で、本来ならあちらがもっと聞きたい、知りたいと思ってくれることが一番かなと思うんですが、最初のきっかけとしてやっぱり、そうしてもらって最初のきっかけ作りっていうのはどうしても必要になってくると思うので、そういった形でやっていくことが大事かなと思ってます。

総務民生文教委員会なんですけど、今年一年、初めて、こういう、まだ全然分かってないことも多いと思うんですけど、ただ私、世代的には子どもがちょうど学校に通っている年代なので、もっと

現場、実際に自分が思っていることとかを委員会に反省させていけたらもっと良かったのかなというのは、自分自身として反省したので、次年度、どういうふうになっていくか、例えば、委員会に自分が属していても、いなくてもですけど、そういった自分の今置かれてる状況から思うこと、言えることをもっとどんどん議会の中に落とし込んでいきたいなというふうに思いました。

○議長（加藤輔之君）

2番 犬塚利彦君、どうぞ。

○2番（犬塚利彦君）

僕も広報の委員会に参加させていただいておりましたが、議会ちゃんねるもみんなに読んでもらえるということがなかなか難しいなと思って、やっぱりみんなが取つきやすい、分かりやすい言葉で、難しい、今、片言で余り言われても分からないと思うんですけど、もうちょっとみんなが取つきやすい、読んでみようかっていうものにしていかんと、まずいんやないかということをおもいました。

○議長（加藤輔之君）

以上かな。

○2番（犬塚利彦君）

はい。

○議長（加藤輔之君）

最後に、広報広聴委員会では何人かの人から意見が出とった議会報告会等について、学校関係に働きかけるということについての意見をもう一遍聞きたいけど、どうかな。

○5番（柴田幸一郎君）

私の失敗例をここで素直に話したいと思ってます。昨年3月に教育委員会に生徒と議会報告会ができないかと相談しに行ったんですが、そうしたら、教育計画がもう出来上がっているからという理由で断られました。

それじゃあ、もしもなんですけども、中学生を対象とした議会報告会を開催するとするならばなんですが、本年は2月1日に公聴会が開催される。ここで議会報告会を依頼する最後のチャンスかもしれない。そう考えるなら、令和6年にやるっていうふうに皆さんの同意が得られたならば、2月1日付でそこに依頼書を提出することができます。

もしも、その際、早くやらんでいいと、もう令和8年でもゆっくりでもやればいいというふうならば、まだここでは出さなくていいと思っています。

私の失敗談から、2月1日に公聴会に提出するっていうのが、令和6年度のある意味、最終的な時間のタイムリミットになっておると思っております。皆さんと議会全体として検討していただきたいなと私は思っています。

以上です。

○11番（小木曾光佐子君）

それについていいですか。

○議長（加藤輔之君）

11番 小木曾光佐子君。

○11番（小木曾光佐子君）

今、2月1日がタイムリミットって言われましたが、そこに出すのであれば、例えば、中学生にやるのであれば、いつ頃にどんなことをやるのかまでが決まっていないと、日程にも入れてもらえませんよ。ただやりたいだけでは。

○14番（熊谷隆男君）

ここで議論する話やないと僕は思う。

これ、前の副議長がやれって言ったって、次の副議長がこれやれの話ではないと思う。

これが、ましてや何をやるか、議会報告会をやるのか、やらないのか。議会報告会って何たるものや、何がやりたいのや、何が聞きたいのか。それも考えずに、とにかく日にちだけを抑えて、みんな頼むよってというような話に聞こえるので、僕は違うと思う。

これ、議員間討議を省いて早く決めましょうというのは、拙速とわがままにしか聞こえんと僕は思うな。言っとることが。

そうやなくて、議会で構築しようと思ったら、仮に一体何がやりたい。この間のように議会に呼んでやることに日程が合わないと言いよるのか、出前があれば、各学校で頼んでもやれるような。もう一つは、中学生や小学生じゃなきゃいかんのか。高校生じゃいかんのか。

それで言えば、別に公聴会もくそもないんじゃないのっていう話。公聴会に間に合わせるために、今ここでこういうことをやったらいいなと思いますねっていう、脅迫じみた話の進め方は、民主主義に反すると思う。いや、進め方自体が。

これはやっぱり皆さんのご意見を聞いて、何をやりたいのか、何を進めたいのかということから始まらないと、日にちだけを抑えて、さあ、日にち取ってみんなで考えましょうっていうのは、俺は本末転倒しとると思う。進め方として。

議長はどう思われるか分からんけども。ましてや次の議長はもう来月の末には変わっていて、副議長も変わる。その間に議長選挙でこれやってねっていうのであれば、可能であるのなら、議員の定数の検討委員会からこれやってねって言ったら、みんなやるのかっていう話になるわけですよ。

定数を回復するためには、これは各委員会、これをやってもらわな困るんやからって言って、こんなことが起こるのかと。やっぱりそのときの委員長が、考える。

今日はそれを知恵をつけるところの部分であって、それはやってくれるの、やらんのっていうことまで具体的な案はね。これはここで差し控えるべきやないかと。

ましてや議員協議で、例えば、この指とまれ討論会でこういうことを僕は思っとるよとか、会派でこういうことを思っとる、会派の皆さんどうですかっていう議論の中で、議会運営委員会に上がってくるとかっていう道筋であったりというなら分かるけども、ここで今後のことをこうやって具体的なことっていうこと自体が、僭越極まりないと。常識から逸脱しとると思いますけど、いかがでしょう。

○5番（柴田幸一郎君）

はい。それでは、私の言い方がすごく悪かった。

昨年の私の失敗はこうでしたということだけ報告するべきでした。

○14番（熊谷隆男君）

そうです。

○5番（柴田幸一郎君）

もう一遍、ちょっと言います。昨年3月に報告会がしたいと言ったんだけど、断られました。

ということだけ報告させていただきます。

○11番（小木曾光佐子君）

私、もっと後でやらせていただくことができたので、工夫すればできるということ。

○14番（熊谷隆男君）

これは校長会や教育委員会、みんなに、何て言うの、行政のあれのところへ頼まないとできんように思っとること自体が、自治制がないやないか、議会の。もっと議会がやっぱり知恵を使って直接会ったりとか、そういうことって、校長先生に頼んでも、子どもたちに会える機会は作れるんやて。

それで、何をしたいんや。議会がこういうことをやっとなんか報告したいのか。この間みたいに行政の代わりに皆さん、何か困ったことはありませんかって、議員の役割はそういうことをやれって執行部に、行政に言うのが役割で、聞いたやつの中でこういうこと意見が出たけど、こう思うっていう、答えてやってくれよんかという役割というのは、全く違うと僕は思う。

何をやるんやと。子どもたちに何を伝えるんやと。何を聞くんやと。それがはっきり明確でなければ、街灯をつけてほしいって思います。通学するときに困ります。これって、ここでやらなきゃ聞けない話かって言えば、そんなこと僕はないと思う。

アンケートの用紙を配って書いてくれたって同じことじゃないのっていう。そうやなくて、議会が何かを伝えるなり何なりということがあんなら、こういう形でやりましょうということを出したほうがいいと。やるのがどうというよりも、何を成果物として得られるかということが抜けると思うな。

○議長（加藤輔之君）

はい、そういうことで、副議長の思い、広報広聴委員長の思いはよう分かったと思いますので、その辺を次期、よく参考にしてもらって、いろんな方法、やり方で子どもたちに働きかけるということはあるというふうに思いますので。

はい。

○3番（奥村一仁君）

おっしゃったことはよく分かるんですけど、それは今までやってきたやり方ですよ。そうすると、また来年。

やり方というのは、おっしゃったことっていうのは、ここで要は決めることじゃなくて、次に決

めることとおっしゃってたのは分かるんですけど、違いますか。

どこかでやり方を変えないと、結局同じことを繰り返すと思うんです。今、ここに出てきた課題というのは、皆さんの共通認識としてある課題なので、その課題を解決するために、議会全体で決めないと、進んでいけないと思います。

ここで、例えば、副議長が今おっしゃったのは、失敗例ということをおっしゃいましたけど、ただこのタイミングで決めておくのがベストということは変わらないと思います。もちろん、小木曾議員が副議長のときにもできたんですけど、教育長から僕、話聞いたんですけど、あのときはたまたまできたんですよ。

でも、たまたまじゃいけないと思うんですよ。たまたまじゃいけなくて、しっかりと議会としてやっていくためには、もうこのタイミングしかないと思っています。

もちろん、熊谷議員がおっしゃったように、校長会に頼んで小学校でやるだけが確かにそのやり方じゃないんですけど、一方で、子どもを対象にしてやる、小中なのか、それは来年の広報広聴委員会に考えてもらえばいいと思いますけど、子どもを対象にしてやるということは決めておかないと、同じ議論を繰り返すことになります。

決める場が僕は、個人的には今日だと思ってたので、というのは、前回は議員定数検討会でしたけど、今日は議員協議会という名前の会議体なので、この会議体には決定権があると思いますので、そういうことを決定して次年度に引き継ぐためのこの会だと思ってたんですけど、結局ここで何も決めずに、次また何かの機会があるのかちょっと分からないですけど、次また令和6年第2回の会議で決めるっていうことなら、また次回でいいと思うんですけど、今後の進め方ってというのはどうなっていくんでしょうか。

○14番（熊谷隆男君）

言葉は悪いけど、協議会は決定事項を決議する場じゃないと僕は思うのね。協議する場でもあるので、今ここで議題が出たと。それで、さっき話したみたいに、もしこれを大事やと思う、これを例えば、今の副議長が、これどんな立場でもいい、今度はね。次の立場っていうか、できるわけがあったら、それを議員として定義すると。で、話をすると。

それが、今話さないと間に合わないからということが、今この場で決めなきゃいけないっていうことであるのを、今、皆さんが聞いたところでどう思いますかって決議するっていうこと自体が拙速やということを感じるわけやけども、みんなにまずテーマ、こういうことを考えとるよということが、まずみんなに共通の意見を聞いたのがこの場であって、今のはどうですかと。僕の言ったこと正しいので、皆さん納得してもらえればこれから決めましょうっていう会ではないと。

これを規則的に決めようとしたら、やはり議会運営委員会なり議長の諮問で出されるなり、決定するに至って議会改革特別委員会に預けるなり、付託するなり、そこへやると。それで、全員協議会で、またこの議員協議会で意見を聴取したものを踏まえて、腹案を作って提案して、こういうことにしたいよ、どうするかということを決めて、それを議会運営委員会で諮ってやるということやけど、そういうことの規則の決め方が、もうこれをちゃんとやるんだと。毎年やるんだと決めれば

いいのか、そうではなくて、そのときに応じて、そのやる役割だけを決めといたら、そのときの当事者が決めたほうがいろんなパターンができるんじゃないか。

毎年子どものところへ行くのかと。去年の3年生以外、今年は4年生に行くとか、学校へ必ず行かなきゃいけないのを定例行事にして入れるということがいいのかどうかということやね。行って、社会教育のようなふうで、社会の勉強のようなふうで、議会のあり方を説明する会にするのか、みんなは議会について何を知ってますかって、何でも聞いてくださいって言ったら、議会のことを子どもたちが聞けるのってということやよね、俺が思うのは。

そうやなくて、行政も議会も一緒くたになっとれへんか。子どものときはそう思ってたんやから。それに言うことが本当にいいの。自己満足の世界になっとらへんか。本当に深めることになるのか。そういうことの議論から始めないと、何でもやれば、やれることはやったほうがいいっていうことであれば、出前で、例えば、本当についていうのであれば、こちらと議会報告会を全部一緒くたのようなイメージで捉えるのはよくないので、これは総務民生文教委員会で企画で上げれば、出前はやれると僕は思うんだ。

それを議会広報広聴委員会が、広聴をやりたいから開いてくださいっていう開き方やなくて、総務民生文教委員会が委員会の活動でこれについて深めたいというももでは、立ち位置が違うと思う。

○議長（加藤輔之君）

3番 奥村一仁君。

○3番（奥村一仁君）

議員協議会には決定権があると思ってます。これまでも、具体的にちょっとどれがとは言えないですけど、議員協議会で決まったことが決定事項として議員間でやってきたことがあると思いますので、この会議体で決定することはできると思います。

必要に応じて、おっしゃったように、議会運営委員会にかけるべきものは議会運営委員会にかけるということでもいいと思います。

この5年で、3年間、広報広聴委員をやりましたけど、3回とも同じような課題としてこれが上がってくるんです。要は、投票率とかを見ても若い方が興味を持っていないので投票率が上がらない。議会ちゃんねるとかでここ3桁をとっても、興味がないとか、見ないという回答が90%以上でしたっけ。あったという組み合わせがあります。

これってというのは、僕がやってきた毎年、5分の3か。5分の3でやってきた中でもずっと同じような議論があるので、これを何とか解決するためには、やっぱりこういう議員協議会でみんなの共通認識としてもう既にあると思うので、当然、皆さん、この数年に広報広聴委員をやったことあると思いますし、高校生アンケートを見ていただいたと思いますので、そういうことを改善していくためには、やっぱりどこかで何かを決めて改善していかなくちゃいけないと思うんです。

今回は子どもたちというのを一つのきっかけとして、先ほど申したような投票率向上だったりとか、もちろん、小学生、中学生、高校生対象によってやることは変えていかなくちゃいけないんですけど、当然、小学生に議会報告したところっていうのもあるので、対象によって変えていかな

ければいけないと思うんですけど、ただ、子どもを含めた若者に対して議会から何かを発信していくってことをやっていかなければ、もちろんなり手不足の解消もできないと思いますし、魅力の発信とか、そういった情報発信、投票率の向上、全ての社会的問題を解決することはできないと思いますので、そのきっかけとして共通認識としてやっていこうねってことを決めなければ、次の来年度になったところで、来年度の副議長さんがどう考えるか分からないですけど、それはやる必要ないと決めてしまえば、また同じ課題がその次の年に出てくるってことはもう目に見えていますので、やっぱり早いうちにこれは議会全体で決めてやっていかなければいけないと思っています。

これを思ってるのは、僕だけじゃなくて、皆さん本当はそう思ってると思いますので。

○14番（熊谷隆男君）

これさっき言ったみたいに、これ広報広聴委員会がやらなくてね、常任委員会でやったらどう。常任委員会で意見が集約できるんやから、若者のアプローチはやりますよと。出前講座をやりますよ、別に総務民生文教委員会がやればいいことやと思うわけよね。

それで、常任委員会の重さってというのは、議会にも活動報告もするし、視察報告もするのと一緒にして、ある意味、重いものが今軽くなっちゃつとるから、広報広聴委員会のほうが副議長が親分やから何となく指揮が取れるという強さを思うけど、広報広聴委員会の役割は、やはり聞くことを広げること、広報広聴するということに特化して、関心がない、選挙どうのって、これはやっぱり委員会が企画を出して、それを形にするということが大事で、これをやらないかんやないですかっていうことをみんなで決めるということになれば、委員会の活動もみんなで決めてやるんですよと。みんながこれを取り扱わなきゃいかんのやって決めたんやから、仕事としてこれやりなさいよいうことをまずはやるのか、そうやなくて、その委員会ができたときに、その人が僕はこういうやり方でやりたいって、若い人の意見を聞くならこういうやり方でやりたいということの発想というものがあるかも分かん。

そういうものっていうものは、そのときに応じないと、今回は柴田副議長がこういうことを言って、柴田副議長やなかったらこんな意見言ってくれないかもしれん。言ってくれたもんで、石が投げられてこういうことになつとる。

そうやからと言って、それをずっとやるんだよっていうことまでを決めるということではなくて、次の人もやっぱり考えてやると。これが時間がここでないと間に合わないっていう論議はね。

むしろ言うのなら、高校生ならね、投票率やなんかも直接的で分かりやすいし関心もある。公民と何か、歴史や何やら習う分野もある。それで、あれで言えば、中学生もそうかも分かんけども、やっぱり直接的に言えば、高校生。高校生ということになれば、それより上の人、大学に近い人でも若い人の捉え方が一切違ったということでは、そういうくくりもある。

それを楽にやろうと思えば、教育委員会に頼んで、校長会、校長先生の空いととる、学校の空いととることを教えてもらえば、そこへ当て込めやってやりゃいいんやけど、これを毎回やるのかと。これは今度、出前なのか、集めてやるのか。そういうことも決めないうちにやることだけ決め

て、これやりなさいよっていうことを、次の人、誰がなるか知らんけども、しょうがないでやるんやなくて、自分のやりたいやり方をやらせてやりたいと。

やることはこういうことをやりましょうよと伝えるわけやから、みんな関心があるんやよと、若い人についていうことが伝われば、その人が知恵を使って、こういうときにこういうことを考えたんですがどうですかって出てきたら、それ。

ただ、日にちがないでっていうのの理屈はさ、俺はないと思う。

○11番（小木曾光佐子君）

はい。

○議長（加藤輔之君）

11番 小木曾光佐子君。

○11番（小木曾光佐子君）

別に多分、みんな教育関係のところと、公聴会とかで聞き取りをやったり、交流をやったりということはやってもいいとは思ってます。小学校でも中学校でも高校でもね。ただ、2月1日の校長会に間に合わせるために、教育のところにもやりたいのでお願いしますって言いに行くっていうのが拙速だっていうことを熊谷議員も言ってみえると思うんですけど、そのためだけに頼んじやう。じゃあ、日程も決まってない、内容も決まってない、どうするかまだないのについていうことは良くないよと、それだけのことですよ。

子どもたちとやるのが良くないと言ってるわけではなくて、日にちだけ先に決めてしまうというやり方は良くないねということです。

やるんであれば、そのときにそれまた考えることもできると思うので、それか、今度からこれをきちんと決めて、この段階で2月1日って、めちやくちゃです。

○議長（加藤輔之君）

4番 棚町 潤君。

○4番（棚町 潤君）

多分、奥村議員が言ってるのは、単年度制の弱点を言ってると思うんですよ。来年やりたいことをやろうと思ったときに、この時期にしかできないことがあるんじゃないかっていうことで、それで今の議会の一年ごとに役員が代わっていくことっていうのが弱点だという認識の中で、じゃあ、どうやってクリアしていこうかと。それをこの場で皆さんと話し合う必要があるのかなっていうのを奥村議員が言ってるのかなと僕は勝手に思ってますけど。

それが一年間でやる組織であると、どこの組織でも同じような悩みを抱えてるわけで、その中で工夫して人を集めるのに対して、今までは、先ほどの話だと校長会で話をするしかないという話でしたけど、例えば、コミュニティ・スクールであったり、いろんなチャンネルがあるので、そういったチャンネルをある中で選んで募集をかけていくっていうことは可能なかなと思っております。

ただ、それよりもみんなで作るっていう方針をきっちり決めた後で進まない、それこそぶれてしまうという恐れがあって、皆さん同じように、若い世代に対してどうやって投票率を上げたいか

っていう悩みを持ってると思うんですけど、それが以前、小木曾議員がやられたような手法がいいのか、ほかの手法がいいのかっていうのは、皆さんで考え方が違うと思いますので、やっぱりそこをすり合わせた後に話を進めていかないと、それこそみんな思いは同じでもばらばらになっちゃうってということが起きるかなと思うので。

やっぱり今日決めるのは拙速かなというのが僕の意見です。

言われることはよく分かります。ということです。

○議長（加藤輔之君）

16番 柴田増三君。

○16番（柴田増三君）

今日は、それぞれ委員長がやってきた中での課題を報告していただいて、まとめた中で、今後それをどうしていくのかという場やと思うんよ。課題が見えたものをやっぱりまとめていただいた中で、今年の中でこういう大きな、今みんな若い人にどうしていくのかというようなことがあるので、その課題についても、今後、それをどういう、方法論っていうのは今いっぱい、いろんなことは言われてるので、それも含めた中で、どう課題として取り上げて、それを解決していく方法をこれから考えていただくという。

この前とも、今日は課題を出してくださいということやったもんで、その場でいいんやないかと。まさに拙速過ぎる部分と、今後、課題やっていかなん部分とごちゃ混ぜになつとる部分があるので、もう一度、議長、まとめていただいて。

○議長（加藤輔之君）

さっきも言ったように、柴田議員と話がダブるけれども、今日は引継ぎということで、いろんな意味での希望事項がたくさん出ておる。そういうふうですので、今の件に関してはいろんな方法が今後あるということで、次の副議長になる人、それから、委員長に、総務民生文教委員会の教育関係になる人も含めて、それを伝えとるということであるというふうで閉めたいと思います。

それから、議員協議会というのは決定権が規約上はないので、その辺をもう一遍、しっかりと認識してもらいたいと思います。

○議長（加藤輔之君）

それでは、これで終わります。

午後0時21分 閉会